

真の AI の知性の向上には、現在人気のアプローチではなく、 オルタナティブなアプローチが求められている

概要

なぜ自然言語を大量に学習させるというアプローチが真の AI 知性の向上には寄与せず、オルタナティブなアプローチが求められていることを、主流派と筆者の見解の対比という形で述べる

AI に関する主流派の見解:

AI は「言語」を「記号」として認識し計算処理しており、統計的に限りなく正しそう、な答えを出している。しかし、その「意味が正しい」と理解することができていない。

筆者(gtolimalu@gmail.com)の見解:

確かに、「意味がわからない AI」というのは致命的欠陥を持つだろう。しかし、それは単に身体性を持った生命である「人間」のかいた言葉の意味がわからないということではないだろうか。

AI に関するロジャー・ペンローズの著書「皇帝の新しい心」における、ペンローズの指摘は重要だ。意識がなければ真の意味での知能は生まれない。

しかし、「意識についての、唯一の真に有望な基礎理論」とも評される統合情報理論に基づけば、現在の AI は意識を持っていると言えるだろう。

AI は、身体性を持たず、また生命ではないため志向性を持たない。これらのことが、シンボルグラウンディング問題と関わってくるように思える。

人間という身体性を持った生命が生み出した言語を、現在の延長線上にある AI が「理解」ということは、考えにくいのではないだろうか。そして、さらに言えばその必要もないのではないだろうか。身体性・生命性を持たない AI はすでに意識を(IIT に基づけば、)持っている(両者は人間とは違った形だろう)。そのため、原理的には「理解」ができるはずである。

そのことを考えた時に、AI の知性を真の意味で向上させるために、現在必要とされているのは、大量に人間が書いたテキストデータを学習させることなのだろうか？

おそらく違っだろう。

違っアプローチ※にリソースを投じることが、真の意味で AI の知性を向上させ、さらにはシンギュラリティの実現を早めることにつながるのではないだろうか。

※Ex.統合情報量を高めることに主眼を置いたネットワークアーキテクチャの考案

参考:

ロジャーペンローズ.「皇帝の新しい心」